

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	animo八女町家		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 26日		～ R8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	R8年 1月 26日		～ R8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 26日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を、専門職、他部署と連携を図り、専門性の高い支援の提供を行っている。	個々の特性に応じた支援内容の調整や、送迎時のフィードバックや対話を通しての情報共有を行っている。	必要に応じて関係者間での情報交換の機会を設け、子どもの成長を多方面から支える体制の充実を共有。
2	日々の活動報告や丁寧な説明を通して、保護者との信頼関係の構築に努めている。	保育所等訪問支援による関係機関との連携や、保護者会の開催により、保護者への情報提供や交流の機会を設けている。	関係機関との連携強化と支援の質の向上。保育所等訪問支援を活用し、現場での様子を踏まえた具体的な助言やフィードバックを行うことで、一貫性のある支援の提供に努めている。
3	保護者会や訪問支援を通じた連携により、安心してご利用いただける体制を整えている。	活動内容や時間帯に応じて空間を柔軟に使い分けるとともに、児童が落ち着いて過ごせるよう環境設定(視覚的配慮や刺激の調整等)を行っている。また、安全面や衛生面にも配慮し、清潔で安心できる環境づくりに努めている。	快適な環境づくりの検討。限られた空間の中で、児童がより快適に過ごせる環境づくりについても、継続的に検討している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個々の特性に応じた支援を行う中で、集団場面における支援の統一や関わり方に差が生じる場合がある。	個別支援と集団支援の両立において、場面に応じた適切な支援方法の共有・統一が十分でない場合がある	支援方針や関わり方について職員間での共有を徹底し、ミーティングやケース検討を通して支援の統一を図る。
2	活動スペースについて、同時間の利用人数や活動内容によっては、手狭に感じられる。活動内容や時間帯によっては、十分な静と動の空間の分離が難しい場面がある。	活動内容の多様化において、空間や設備面での調整が必要。利用児童の特性や支援内容によっては、空間の使い分けや環境設定に工夫がより求められている。	レイアウトや空間の使い方の見直し、活動内容に応じた空間の使い分けや工夫を行う。
3	空調設備に関する環境面の課題。	"建物設備の経年による機能面の制約があり、空調や環境調整に影響が出ている。"	空調設備については、快適に過ごすことのできるよう、換気やタイマーの活用を行い、熱さと寒さ対策を行う。